



## 新型コロナウイルス感染経路の追跡を

感染者の発表時、経路が不明の人が増えており、その追跡についてただしました。

また、感染の場は「飲食の場や家族間」が多いと言われますが、その数値なども、公表するよう求めました。

危機管理監から、感染経路は可能な限り追跡している、感染の場の分析・公表は健康福祉部にも伝えたいと答弁がありました。（危機管理建設委員会）

## “流域治水”について

ダムや堤防などの能力をこえる洪水が多発する中、国や県は、遊水地や雨水貯留施設など、流域全体で整備する「流域治水」への転換を進めています。

この取り組みをすすめる上でも、大地をつくり、土地を肥やし、生物の多様性を育んできた歴史など、河川と共生する大切さを広く普及することを求めました。千曲川上流の黒沢川は、まもなく遊水地の工事に入ることなど進捗状況について答弁がありました。（危機管理建設委員会）

## その他に取り上げたテーマ

- ・令和3年度予算編成方針について  
（裏面をご覧ください）
- ・高齢者の補聴器の購入に補助制度を  
（裏面をご覧ください）
- ・古民家再生に経済的な支援制度の創設を
- ・避難所や、避難経路の情報などを取り入れた防災訓練の充実を

## 高校再編 丁寧な対応を

9月に策定された第1次の計画は、伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校の再編統合に、「県民の声が反映されていない」「拙速」などとして、再検討を求める署名が5千名近く寄せられています。また、下高井農林高校を将来、飯山高校のキャンパス校化することも、農林高校を失う不安が広がっています。

こうした県民の声に対し、丁寧に対応するよう求めましたが、教育長の答弁は、再検討に背を向けたものでした。

現在、長野市や上水内郡などの高校でも、「協議会」で論議が行われています。（本会議）



山村留学は、子どもの自立心を育て、中山間地の児童の確保や地域の活性化に大切な役割を果たしています。しかし、コロナの影響で大きな打撃を受けており、県の支援を求めました。（大町市八坂）

## 浅川の土砂や樹木を 今年度中に撤去



6月の県議会（建設委員会）で、沿線のみなさんから寄せられていた河川内の障害物の除去やしゅんせつなど、最大限の内水被害対策を求めました。

河川課長は、できる限りやっっていくと答弁。浅川ダムから千曲川との合流点まで、今年度中に土砂や樹木の撤去をめざすことになりました。

## 長野県立大学 授業料の減額・免除を実現

新型コロナの影響で家計が急変し、学生の生活がひっ迫しています。6月県議会（本会議）で県立大学の学生への独自の経済支援、授業料の減額や免除を求めました。

県民文化部長は、「経済的に困窮する学生が就学を断念することがあってはならない。学生や家庭の状況を把握しながら大学と検討し、学びの継続ができるよう適切に対処する」と答弁していました。

